

年4万頭出荷へ新豚舎

さつま・旭ファーム 県内有数規模

さつま町の養豚業旭ファーム(大迫昭蔵社長)は、年間2万7千頭の出荷頭数を今後5年で1.5倍に拡大し、年間4万頭の出荷体制を目指す。県内有数の規模となる。2億5千万円を投じ、同町に新たな豚舎を建設する。同社は植物性の飼料

にこだわるなど肉質の高い豚肉を生産しており、「鹿児島XX」「鹿児島OX」ブランドで全国に販売している。新豚舎は昨年7月ごろから着工しており、順次稼働させている。来年半ばに完成する見込み。

建設資金2億5千万円のうち、3500万円は社債を発行。鹿児島銀行などが出資したアグリクラスターファンドが投資した。ファンドは、南九州の農業関連産業支援のため、昨年8月に設立された。これまで4社に計5億8千万円を投資しており、今回で5件目。

鹿児島市の旭ファームに農業支援ファンド投資

福岡市のドーガン

ファンド運営会社のドーガン・インベストメント(福岡市)は4日、同社が運営する農業支援ファンド「アグリクラスターファンド」が、鹿児島県さつま町の養豚業者、旭ファームに投資を実行した、と発表した。

旭ファームは1981年設立。植物性飼料のみで育てた高品質のブランド豚を、全国に年2万7千頭出荷しており、鹿児島県内で10番目の規模。高い繁殖技術を持つことも評価された。

投資は、農場を現在の8畝から10畝に拡張する設備資金の一部で、3500万円分の社債を引き受ける。旭ファームは今後5年間で、年間出荷数を4万頭に増やす方針。

同ファンドには、鹿児島銀行(鹿児島市)など鹿児島県内の7社が出資。投資総額は5件で6億1500万円になった。

旭ファームは1981年設立。植物性飼料のみで育てた高品質のブランド豚を、全国に年2万7千頭出荷しており、鹿児島県内で10番目の規模。高い繁殖技術を持つことも評価された。

投資は、農場を現在の8畝から10畝に拡張する設備資金の一部で、3500万円分の社債を引き受ける。旭ファームは今後5年間で、年間出荷数を4万頭に増やす方針。